

実習感想文

岡山大学医学部 6回生
Mさん

【期間】

2014-6-30～2014-7-4

【感想】

「毎朝クリニックへ向かうのが楽しみでした。」このことが本実習が有意義であったことの何よりの証左かと思います。振り返ってみても、様々な方に多くのことを教えて頂いたように思います。

江原先生には告知の問題や進路指導等、教わることが出来ました。佐能先生には電子カルテの導入や管理、医療経済について分かりやすい例えで教えて頂いたこと良く記憶に残っています。小林先生にはボトックス注射の指導を通して毒素の作用点やカメラワーク等教えて頂きました。小森先生には診療所や病院の経営、法規制や介護制度等大学の医学教育ではあまり重点を置かれない分野について勉強させて頂きました。看護師さんにはある意味では医師よりも患者さんに近く、その接し方などから「With a patient」という日野原先生の教えを再認識することが出来ました。その他にも薬剤師さんやケアマネージャーさん事務の方など多職種連携で訪問医療が成り立っていることがよく分かった一週間だったと思います。

また、何より患者さん1人1人の姿が病院外で患者さんに接する機会が乏しかった私にとって退院後の姿を知るという意味で非常に勉強になったと同時に医療の原点、単に病気を治すことだけではないことを意識することが出来ました。これは本来の実習目標である緩和医療の精神にも通じることと思います。最後になりましたが、一週間楽しい実習をありがとうございました。